

公益財団法人日本宇宙少年団 平成29年度事業計画書

はじめに

当財団は今年度、公益法人への移行から5年目となる節目の年を迎えます。これまで多くの青少年に宇宙のホンモノに触れる体験や機会を提供し、青少年同士の相互作用、指導者との関わりを通して宇宙への興味や関心、学習意欲を高めるものとして実施してきました。

昨今では宇宙飛行士の活躍や世界の宇宙開発に関する話題も多くなり、我々の暮らしにも宇宙が身近なものとして関心が高まっていると感じています。当財団は、このような宇宙の話題と関連付け、専門機関や企業との連携、協力を図りながら青少年の宇宙への理解もたらしプログラム工夫にこれからも努力してまいります。

また、これまでも課題としてきた財政基盤充実については、連携団体との連携、団員拡充に向けた取組み、団員定着のための各種対応やサービス等の充実も必要不可欠な取組みの一つであると思っております。ただし、現在の事務局の規模を考えますとこの取組みは時間をかけて検討し段階的に推進していかざるを得ないと思っております。こういった状況を踏まえ、まず今年度は、公益法人移行後の連携団体である日本宇宙少年団分団、特に休団中である分団や各地域の分団活動状況を把握するための調査と実態の把握に努め、この情報を基に連携団体との連携や団員拡充への取組等を見直し、改善していくための基礎情報とします。

公益法人移行より5年目の節目を迎え、日本宇宙少年団(YAC)の取組む活動は、YAC指導者の英知と善意をもってその活動がなされており、その活動を賛助下さる関係各位のご理解とご支援により遂行できていることについて、心から感謝を申し上げます。

上記を踏まえ、以下に今年度の各事業における具体的な取り組みを記載します。

I. 人材育成事業（公1）

未来を担う青少年に、宇宙及び科学をテーマとした体験・体感型学習を通して興味や関心を喚起させ、青少年の宇宙への夢を育む人材育成を目的に、以下の事業を行います。

1. スペースキャンプ事業
2. 情報発信(宇宙教育TV、宇宙情報誌等)事業
3. webによる普及啓発事業
4. 将来の特定の活動「2020年宇宙の旅」事業(特定費用準備資金)

1. スペースキャンプ事業

(1) 種子島スペースキャンプ

夏休みを利用し、ロケット打上げ射場のある種子島で宇宙・自然・交流をテーマとした宇宙開発に関わる学習、自然体験活動、野外学習を行います。

宇宙開発に関わる学習では、JAXA種子島宇宙センターの見学や専門家による講義、水ロケット

の工作・打上げを行います。自然体験活動では、種子島の歴史や自然に触れ、マングローブやウミガメ学習を通じた環境学習を行います。野外学習では夜に天体観測を行い、都会では見ることのできない無数の星空を体感します。

時期：夏休み期間中(4泊5日)

場所：種子島

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般 30～40名程度

(2) YAC宇宙レポートin種子島

夏休み、冬休み、春休みの期間中に種子島宇宙センターよりロケット打上げがある場合は、「YAC宇宙レポートin種子島」としてツアーを計画し、打上げ見学の機会を提供します。

(3) 筑波スペースキャンプ

JAXA筑波宇宙センターの施設見学と特別講義、そしてホンモノの宇宙飛行士訓練施設で模擬訓練体験を行い、初めて出会う多様な年齢の仲間と楽しく学びながらコミュニケーション能力等を学びます。

時期：夏休み期間中 1泊2日あるいは2泊3日

場所：JAXA 筑波宇宙センター、

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般 20名～30名程度

(4) 伊豆大島スペースキャンプ

新中学生から高校生を対象に春休みに伊豆大島で大学生、高校生らによるハイブリッドロケット打上げ実験場を訪れ、ロケット打上げの見学の他モデルロケット3級ライセンス、4級ライセンスの取得に挑みます。

時期：3月 2泊3日

場所：伊豆大島(裏砂漠)

対象：新中学生～高校生の団員及び一般 10名程度

(5) アメリカスペースキャンプ

2017年8月、アメリカの広範囲にわたり既日食が見られる機会に、皆既日食についての学習と併せてツアーを企画しその珍しい自然現象を観測します。

実施タイトル：YACホンモノ体験「アメリカ皆既日食スペースキャンプ」

時期：8月19日(土)～8月24日(木) 5泊7日(予定)

場所：アメリカ・ポートランド・セイラム地区 他

対象：小学5年生～大人の団員及び一般 30名～40名程度

2. 情報発信(宇宙教育TV、宇宙情報誌等)

(1) 宇宙教育TV

宇宙関連トピックや宇宙教育イベントに合わせ、JAXA宇宙教育センターと連携して番組を制作し、インターネット放送で提供します。本番組では当財団職員が番組司会者となり、宇宙開発の専門家による解説を交えて子どもや一般視聴者に分かり易く紹介します。

(2) 宇宙情報誌等

宇宙に関わる様々な分野や研究者の活動紹介、そして宇宙及び科学に関する最新のニュース、新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの宇宙及び科学に対する関心・好奇心を育む

ことを目的として「宇宙のとびら」の編集協力を行います。この情報誌「宇宙のとびら」をJAXA宇宙教育センター(発行)及び(公財)日本宇宙少年団(編集協力・団員配布)の連携により、年4回(6月、9月、12月、3月)発行し団員及び賛助企業等へ発送します。

(3) YAC通信の発行

これから予定するイベントの告知や終了したイベントの報告、分団での活動紹介やこれから設立される分団の情報等を年4回(6月、9月、12月、3月)発行し、情報誌「宇宙のとびら」と一緒に団員へ発送します。

(4) 団員への送付物

入団に際し、団員特典として、新規団員は団員証、バッジ、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を送付します。継続団員は団員証、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を送付します。

(5) 団員管理システムの維持管理

財団独自に構築している団員管理システムにより、団員一人一の個人情報の適切な管理に努めます。

3. Webによる普及啓発活動

(1) 連携団体長会議の開催

JAXA宇宙教育センター協力の下、全国各地での分団結成の支援を行うとともに、定常的に新規分団結成の問合せや分団からの課題の相談に応じてアドバイスをを行います。

(2) 活動マニュアル等のweb公開

YAC指導員のみならず広く一般に、活動教材集やリーダーのためのガイドブックをwebで公開し、活動の素材提供、安全管理や子ども理解等のノウハウを提供します。

(3) webを通じたイベントの取組み

財団主催のスペースキャンプやコンテスト、団員のみならず広く一般を対象とするイベントなど、一般を含む各種事業の参加募集や実施結果等をwebを通して公開し、子ども達の宇宙及び科学に関する普及啓発を行います。

(4) 講師派遣等

社会教育団体活動の指導者育成を目的とするセミナーを JAXA 宇宙教育センターと当財団が主催となり、開催地域と連携協力しながら全国で行います。
また、青少年や一般を対象にその他事業として、イベント等に講師派遣を行い宇宙及び科学に関する知識の普及啓発を行います。

4. 将来の特定の活動(特定費用準備資金)

2020年宇宙の旅

日本宇宙少年団では、同じ目標に向かって成長する全国組織を目指し、その目標を達成させるために全体共通の活動プログラムを提案し活動の輪を広げ、活動を展開することにより宇宙時代を担う青少年の育成のための一助となることを期待して、2014年(平成26年度)より2020年ま

での7年間に亘り、タイトル「2020年宇宙の旅」を毎年指導者と子どもを交互に対象に置き、以下の目的に従い実施します。

- ① 全国の分団が取り組むことができる全体活動プログラムを行い、全国大会にその成果を持ち寄って交流を行い、ともにレベルアップを図る。
- ② 全体活動プログラム“もし私が宇宙へ行けたらやってみたいこと”(小学生対象)、“もしも私が宇宙に行って仕事をするなら“(小中高校生対象)を発展させて「2020年宇宙の旅」を進める。

時 期：平成29年9月16日(土)～18日(月・祝)

場 所：長野県上田市

内 容：「2020年宇宙の旅」計画に基づき、YAC団員の全国大会として位置づけ下記のプログラムを行います。また、その他に開催地域の子どもたちに宇宙教育を体験してもらえるワークショップを行います。

- 1) 宇宙及び科学に関するワークショップ(一般向け水ロケット製作、打上げ体験 他)
- 2) 宇宙に関わる専門家の講演
- 3) 団員交流会・分団紹介等
- 4) 全国水ロケットコンテスト2017

II. 管理運営等

1. 会 員

平成24年8月より公益財団に移行し、まる4年が経過しました。公益財団移行後はこれまでの正団員に加え新たに「家族団員」制度を設け団員数の向上に努めて参りました。新制度から約4年間で兄弟のみならず保護者の加入もあり、家族で団員となる「家族団員」増えてきています。今年度も事業を実施する際には入団の勧誘を積極的に行うとともに入団動機に結びつく活動の推進と退会の減少を目指します。

また、賛助会員は毎年数件ずつ減る傾向にありますが引き続き将来を担う青少年活動への応援を継続いただけるよう積極的に働きかけて行きます。

2. 事務局体制

(1) 要員

団員管理システムに専任1名(非常勤)を置き、非常勤1名、常勤2名の体制で事務局を運営します。また、事業の内容や業務の繁忙具合によって積極的にボランティア等、臨時のマンパワー導入を行い効率化を図ります。

(2) 寄附金募集の推進

当財団に対する寄附金については、より一層のPR及び獲得に努めます。

以 上